

XP-002208946

AN - 2002-122274 [16]

AP - WO2001JP05261 20010620

CPY - SHIS

DC - B05 D23

DS - AT BE CH CY DE DK ES FI FR GB GR IE IT LU MC NL PT SE TR

FS - CPI

IC - A61K7/46 ; A61K35/78 ; A61P25/20 ; A61P25/22 ; C11B9/00

IN - SAKAI K; SHOJI K

MC - B04-B01C B14-J01B4 D10-A05

M1 - [01] M423 M781 M905 P448 Q253; RA028I-K RA028I-T RA028I-U

- [02] M423 M781 M905 P448 Q253; RA2QT8-K RA2QT8-T RA2QT8-U

PA - (SHIS) SHISEIDO CO LTD

PN - ~~WO0198442~~ A1 20011227 DW200216 C11B9/00 Jpn 020pp

PR - JP20000184132 20000620

XA - C2002-037509

XIC - A61K-007/46 ; A61K-035/78 ; A61P-025/20 ; A61P-025/22 ; C11B-009/00

AB - WO200198442 NOVELTY - Stress relieving perfumes comprise valerianic oil.

- ACTIVITY - Tranquilizer.

- In social stress conditions perfume containing valerianic oil significantly (p is less than 0.01) reduced cortisol concentrations.

- MECHANISM OF ACTION - None given.

- USE - For relieving stress by aromatherapy.

- ADVANTAGE - Reduces stress naturally without the use of drugs and their possible side effects.

- (Dwg.0/1)

CN - RA028I-K RA028I-T RA028I-U RA2QT8-K RA2QT8-T RA2QT8-U

DN - CN JP KR US

IW - STRESS RELIEVE PERFUME COMPRISE OIL

IKW - STRESS RELIEVE PERFUME COMPRISE OIL

INW - SAKAI K; SHOJI K

NC - 023

OPD - 2000-06-20

ORD - 2001-12-27

PAW - (SHIS) SHISEIDO CO LTD

TI - Stress relieving perfumes comprise valerianic oil

T1/5/ALL

1/5/1

DIALOG(R)File 351:Derwent WPI

(c) 2003 Thomson Derwent. All rts. reserv.

014301570

WPI Acc No: 2002-122274/200216

XRAM Acc No: C02-037509

Stress relieving perfumes comprise valerianic oil

Patent Assignee: SHISEIDO CO LTD (SHIS); SAKAI K (SAKA-I); SHOJI K
(SHOJ-I)

Inventor: SAKAI K; SHOJI K

Number of Countries: 024 Number of Patents: 005

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
WO 200198442	A1	20011227	WO 2001JP5261	A	20010620	200216 B
KR 2002063843	A	20020805	KR 2002701683	A	20020207	200308
CN 1383449	A	20021204	CN 2001801747	A	20010620	200322
EP 1293554	A1	20030319	EP 2001941121	A	20010620	200322
			WO 2001JP5261	A	20010620	
US 20030054049	A1	20030320	WO 2001JP5261	A	20010620	200323
			US 200249526	A	20020213	

Priority Applications (No Type Date): JP 2000184132 A 20000620

Patent Details:

Patent No Kind Lan Pg Main IPC Filing Notes

WO 200198442 A1 J 20 C11B-009/00

Designated States (National): CN JP KR US

Designated States (Regional): AT BE CH CY DE DK ES FI FR GB GR IE IT LU
MC NL PT SE TR

KR 2002063843 A A61K-007/46

CN 1383449 A C11B-009/00

EP 1293554 A1 E C11B-009/00 Based on patent WO 200198442

Designated States (Regional): AT BE CH CY DE DK ES FI FR GB GR IE IT LI
LU MC NL PT SE TR

US 20030054049 A1 A61K-035/78

Abstract (Basic): WO 200198442 A1

NOVELTY - Stress relieving perfumes comprise valerianic oil.

ACTIVITY - Tranquilizer.

In social stress conditions perfume containing valerianic oil significantly (p is less than 0.01) reduced cortisol concentrations.

MECHANISM OF ACTION - None given.

USE - For relieving stress by aromatherapy.

ADVANTAGE - Reduces stress naturally without the use of drugs and their possible side effects.

pp; 20 DwgNo 0/1

Title Terms: STRESS; RELIEVE; PERFUME; COMPRISE; OIL

Derwent Class: B05; D23

International Patent Class (Main): A61K-007/46; A61K-035/78; C11B-009/00

International Patent Class (Additional): A61P-025/20; A61P-025/22

File Segment: CPI

?

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局



(43) 国際公開日
2001 年12 月27 日 (27.12.2001)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 01/98442 A1

- (51) 国際特許分類: C11B 9/00, Ken) [JP/JP]. 坂井圭子 (SAKAI, Keiko) [JP/JP]; 〒224-8558 神奈川県横浜市都筑区早渕2丁目2番1号 株式会社 資生堂 リサーチセンター(新横浜)内 Kanagawa (JP).
- (21) 国際出願番号: PCT/JP01/05261
- (22) 国際出願日: 2001 年6 月20 日 (20.06.2001) (74) 代理人: 弁理士 岩橋祐司 (IWAHASHI, Yuji); 〒221-0044 神奈川県横浜市神奈川区東神奈川1-11-8 Kanagawa (JP).
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語 (81) 指定国 (国内): CN, JP, KR, US.
- (30) 優先権データ: 特願2000-184132 2000 年6 月20 日 (20.06.2000) JP (84) 指定国 (広域): ヨーロッパ特許 (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE, TR).
- (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 株式会社 資生堂 (SHISEIDO CO., LTD.) [JP/JP]; 〒104-8010 東京都中央区銀座7丁目5番5号 Tokyo (JP). 添付公開書類:
— 国際調査報告書
- (72) 発明者; および 2 文字コード及び他の略語については、定期発行される各 PCT ガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。
- (75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 庄司 健 (SHOJI,

(54) Title: STRESS-RELIEVING PERFUMES AND STRESS-RELIEVING PERFUME COMPOSITIONS CONTAINING THE SAME

(54) 発明の名称: ストレス緩和香料及びこれを含むストレス緩和香料組成物

(57) Abstract: Perfumes efficacious in relieving physiological stresses; and perfume compositions containing the same which are efficacious in relieving stresses. Namely, stress-relieving perfumes containing as the active ingredient valerianic oil, in particular, fatty acid-free valerianic oil and stress-relieving compositions containing the same.

(57) 要約:

本発明は、生理的な側面のストレス緩和に有効な香料、それを含むストレス緩和に有効な香料組成物を提供するもので、バレリアン油、とくに脂肪酸を除去したバレリアン油を有効成分とするストレス緩和香料、及びそれを含むストレス緩和香料組成物である。

WO 01/98442 A1

明 細 書

ストレス緩和香料及びこれを含むストレス緩和香料組成物

本出願は、2000年6月20日付け出願の日本国特許出願2000-184132号の優先権を主張しており、ここに折り込まれるものである。

[技術分野]

本発明はストレス緩和香料及びそれを含む香料組成物、とくに生理的機能にまで影響が及ぶストレスに有効性を示すストレス緩和香料に関する。

[背景技術]

現代社会におけるストレスはときにアレルギー、胃潰瘍等の各種生理的態様で発現することがあるが、必ずしも治療を必要とするほど症状が重くなるとは限らず、一般的な経口投与、或いは注射投与等、医師の監督下を前提とする薬剤の使用には限界があった。また、こうした薬剤は副作用が懸念される。

一方アロマセラピーにおいてリラクセーション効果あるいは鎮静効果があることが伝承的に確認されているある種の天然精油を用いてストレス緩和効果を得る試みもなされており、とくに心理的側面からストレスの緩和に効果をあげている。これは人体に対する投与に際して新たなストレスを付加することがないという利点を有している。

しかしながら、ストレス緩和効果を得るために多くの精油からどの精油を選択するかは熟練者の経験的な判断でなされており、その効果も主観的なもので、明確ではなく個人差も大きかった。また生理的側面へのストレス緩和効果に有効性を示す香料が望まれていた。

一方、ストレス緩和効果を得られたとしても、リラックスしすぎてしまうと作業効率が落ちることがあり、適度な緊張感が持続したままストレス緩和効果を得られる精油を選択する必要がある。

さらにストレス緩和のために用いられる精油の香りが嗜好に合わず調香上問題と

なることも多かった。さらに場合によっては、嗜好に合わない香気は新たなストレスを生んでしまう可能性がある。そこで、ストレス緩和効果を考えると、できるかぎり嗜好性の劣る特殊な香気は避け、より有効にストレス緩和効果を得るため、多量に配合しても調香のバランスが崩れない香料を見出す必要があった。

[発明の開示]

本発明の目的は、生理的な側面のストレス緩和に有効な香料を有効成分とするストレス緩和香料、それを含む香料組成物を提供することにある。

そして、本発明者らは、バレリアン油、特にアルカリ処理して悪臭成分の脂肪酸を除去したバレリアン油には生理的な側面において明らかにストレス緩和効果があることを見出した。

すなわち、本発明にかかるストレス緩和香料は、バレリアン油を有効成分とすることを特徴とする。

また、本発明のストレス緩和香料においては、前記バレリアン油の脂肪酸が除去されていることが好適である。

また、本発明のストレス緩和香料においては、バレリアン油を0.2重量%以上含有することが好適である。

また、本発明のストレス緩和香料組成物は、前記ストレス緩和香料を含むことを特徴とする。

また、本発明のストレス緩和剤としての使用は、バレリアン油を有効量吸引させることを特徴とする。

[図面の簡単な説明]

図1は、本発明のストレス緩和香料による、ストレス指標物質の唾液中コルチゾールの濃度変化を示す図である。

[発明を実施するための最良の形態]

本発明に用いられるバレリアン油としては、セイヨウカノコソウや、その近縁種であるカノコソウ (*Valeriana officinalis* L. var *latifolia* Miq. (*V. japonica* Makino))、

エゾカノコソウ (*V. fauriei* forma *yezoensis*)、インドカノコソウ (*V. wallichii* D.C.) 等の根茎等から公知の方法、例えば水蒸気蒸留や溶媒抽出等の方法で得た精油を用いることができる。また、これらセイヨウカノコソウ及びその近縁種から採油された精油がバレリアン油 (Valerian oil) やカノコソウ油、吉草根油 (Kisso root oil, Japanese valerian oil) として市販されており、これらは日本産、中国産、欧州産等産地に関わらず用いることができる。

一般に上記天然バレリアン油は、少なくとも1種以上、通常数種類以上の脂肪酸を含んでおり、特に悪臭成分の酢酸やイソ吉草酸を含んでいる。本発明ではこれら悪臭成分を除去したバレリアン油を用いることがとくに好適である。

本発明にかかる脂肪酸を除去したバレリアン油は、上記天然バレリアン油からアルカリ処理によって脂肪酸を含む酸性成分を除去することにより得ることができる。

脂肪酸を除去したバレリアン油の具体的な製造方法としては、まず脂肪酸含有バレリアン油を有機溶媒、好ましくはエーテルに溶解し、これにアルカリ水溶液を加えて抽出操作を行い、脂肪酸を含む酸性成分を抽出除去する。アルカリ水溶液としては、通常抽出操作で汎用されるものであれば無機塩基、有機塩基を問わず用いることができるが、好ましくは炭酸水素ナトリウム水溶液、水酸化ナトリウム水溶液であり、特に炭酸水素ナトリウム水溶液で抽出後、さらに水酸化ナトリウム水溶液で抽出することが好ましい。得られた有機溶媒層を無水硫酸マグネシウム等で乾燥後、有機溶媒を減圧留去し、脂肪酸が除去されたバレリアン油を得る。本方法は特開平9-24302号公報に示されている。

また、前記脂肪酸の悪臭成分の除去は、特開平1-254628号公報に示されるように減圧蒸留により、80℃以下の低沸点部を除去することによっても可能であるが、この方法は加熱を伴うためにストレス緩和成分の変性が懸念され、収率もそれほど高くないため前記アルカリ処理による方法がより好ましい。

本発明にかかるバレリアン油、特に悪臭成分を除去したバレリアン油は、優れたストレス緩和効果を有する。本発明でいうストレス緩和効果は、単なる心理的なものではなく、ストレス指標物質として知られるコルチゾールの体内濃度を低下させる作用がある。コルチゾールは副腎皮質でつくられ、ストレスを受けると血中におけるコルチゾール濃度が高くなることが知られている。またこの血中コルチゾール濃度と唾液

中コルチゾール濃度は相関関係があることが知られているので、唾液中のコルチゾール濃度をRIA固相法などにより測定することによって、ストレスの指標とすることができる。従って、本発明のストレス緩和香料は、唾液中のコルチゾール濃度を明らかに低下させるので、生理的な側面からもストレスを軽減するのに有効といえる。

本発明のストレス緩和香料は、前記バレリアン油を香料中0.2重量%以上含有することが好適であり、これより少ないと、有効なストレス緩和効果を得られないことがある。

本発明のストレス緩和香料の用途としては、バレリアン油を直接吸入することによりストレス緩和効果を得ることも可能であるが、ストレス緩和を目的として賦香製品に配合し、ストレス緩和香料組成物として用いることもできる。例えば、香水、コロソ、シャンプー・リンス類、スキンケア用品、ボディーシャンプー、ボディーリンス、ボディーパウダー類、芳香剤、消臭剤、浴剤などに用いられる。

以下、本発明の実施例及びその効果を確認するために行った試験を挙げて具体的に説明する。

本発明者らは、バレリアン油、とくに脂肪酸を除去したバレリアン油（以下、改質バレリアン油と称す）が有効性の高い鎮静効果をもつことに着目し、そのストレス緩和効果を唾液中のコルチゾールを測定することにより、有効性を確認することにした。

まず、本発明の実施例及び試験に用いられた改質バレリアン油の製造方法を示す。

実施例1：ストレス緩和香料

市販バレリアン油（Valerian root oil：山本香料（株））20gにジエチルエーテル200mlを加えて溶解した。飽和炭酸水素ナトリウム水溶液100mlで抽出を3回行った。さらに、得られたエーテル層に対して5%水酸化ナトリウム水溶液100mlで抽出を3回行った。得られたエーテル層を無水硫酸マグネシウムで乾燥後、ジエチルエーテルをロータリーエバポレーターにて減圧留去し、脂肪酸を除去した改質バレリアン油（ストレス緩和香料）18.3g（収率91.5%）を得た。

試験例1 香気官能試験

上記実施例1の改質バレリアン油、ならびに原料として用いたバレリアン油（処理前）の香気を専門パネル10名によって評価した。なお、評価基準は以下の通り。

<評価基準>

- ◎…10名中9名以上が不快臭がないと評価した。
 ○…10名中6～8名が不快臭がないと評価した。
 △…10名中3～5名が不快臭がないと評価した。
 ×…10名中2名以下が不快臭がないと評価した。

表 1

バレリアンオイル官能評価	
改質バレリアン油	◎
(実施例1)	
バレリアン油	×
(処理前)	

上記表1から明らかなように、処理前のバレリアン油は明らかに不快臭を有しており、このままでは、人によってはこの不快臭が新たなストレスとなってしまう懸念がある。これに対して、アルカリ処理によって脂肪酸等の酸性成分が除去された改質バレリアン油の香気は、不快臭が全くなく、本発明により好適といえる。したがって、脂肪酸を除去したバレリアン油は、ストレス緩和香料として改質バレリアン単独で用いることが可能であり、ストレス緩和効果をより有効に得るために香料組成物中に多量に配合されたとしても香質上それほど問題がないことがわかる。

つぎに、得られた改質バレリアン油（ストレス緩和香料）を用いて、ストレス緩和効果の有効性を確認するための試験を行った。

試験例2 ストレス緩和効果の確認試験

被験者女子大学生18名に薬事法の文章を約200文字を10分間で暗記させ、5分間の休憩の後に、人前で暗唱させることによってストレスの負荷を行った。休憩の後、ストレス緩和香料を空調より噴霧した。比較対照として、香気を噴霧しないで同様の試験を行った。

ストレス指標として、唾液中のコルチゾールの濃度を公知のRIA固相法により測定した。測定はストレス負荷前、ストレス負荷直後、ストレス負荷20分後の唾液を採取し、コルチゾール濃度の測定を行った。

結果を図1に、ストレス負荷前のコルチゾール濃度を100%とした相対濃度で示

す。

図1より、香りなしの群は、ストレス前と比較して、ストレス直後及び20分後の唾液中コルチゾール濃度が増加していることがわかる。これに対して、改質バレリアンを噴霧した群は、ストレス前と比較して、ストレス直後及び20分後の唾液中コルチゾール濃度がむしろ低下していることがわかる。したがって、本発明のストレス緩和香料は、生理的な面から明らかにストレス緩和効果があることが理解される。

また、本ストレス緩和効果の確認試験中の、主観的な緊張感の持続性についての有無を被験者にたずねた。評価基準については次の通りである。結果を表2に示す。

<評価基準>

- ◎…18名中16名以上が緊張感が持続したと答えた。
- …18名中11～15名が緊張感が持続したと答えた。
- △…18名中5～10名が緊張感が持続したと答えた。
- ×…18名中4名以下が緊張感が持続したと答えた。

表 2

緊張感の持続

改質バレリアン油の噴霧なし	◎
改質バレリアン油の噴霧あり	◎

表2の結果より、本発明のストレス緩和香料は、生理的にストレス緩和効果が確認されているにもかかわらず、緊張感は持続することがわかる。従って、本発明のストレス緩和香料は、作業に必要な緊張感までも奪うことはないので、作業効率を低下させることはないといえる。

以下、本発明のストレス緩和香料及びストレス緩和香料組成物の実施例を示す。これらのストレス緩和香料（実施例2、3）及びストレス緩和香料組成物（実施例4～8）は、香気吸入により、ストレスを緩和する効果を持つ。

実施例2 香水用ストレス緩和香料

番号	香料名	配合量（重量部）
----	-----	----------

1	フェニルエチルアルコール	20.0
2	α -イソメチルイオノン	15.0
3	イソ イー スーパー(*1)	15.0
4	ヘディオン(*2)	10.0
5	リリアル(*3)	10.0
6	リラル(*4)	8.0
7	ヘキシル シンナミックアルデヒド	5.0
8	ゲラニオール	3.0
9	オイゲノール	3.0
10	ハバノリド(*5)	3.0
11	ベルガモット油	2.0
12	ムスコ	1.0
13	ジャスミン油	0.5
14	バニリン	0.5
15	ローズ油	0.3
16	トンカビーンズ アブソリュート	0.3
17	ベンゾイン レジノイド	0.3
18	オークモス アブソリュート	0.3
19	ヘリオナール(*6)	0.2
20	パチューリ油	0.2
21	アンブレットシード油	0.2
22	イリスコンクリート	0.1
23	香木香気捕集液(*7)	0.1
24	改質バレリアン油(実施例1)	2.0(2重量%)
合計(重量部)		100.0

*1: I F F社の商品名

*2: ヒルメニツヒ社の商品名

*3: シボダンルール社の商品名

*4: I F F社の商品名

*5: ヒルメニツヒ社の商品名

*6: I F F社の商品名

*7: キャラ

実施例3 スキンケア用ストレス緩和香料

香料名	配合量 (重量部)
リモネン	5
レモン油	5
ベルガモット油	5
シスー3ーヘキセノール	0.1
グラニオール	5
フェニルエチルアルコール	5
シトロネロール	10
メチルジヒドロジャスモネート	30
ジャスミン油	3
リリアル(*1)	7
リラル(*2)	5
α -イソメチルイオノン	7
イソ イー スーパー(*3)	3
シクロペンタデカノライド	3
ガラクソライド(*4)	2
改質バレリアン油 (実施例1)	3 (3重量%)
合計	100

*1: ジボダンルール社の商品名

*2: I F F社の商品名

*3: I F F社の商品名

*4: I F F社の商品名

上記実施例3のスキンケア用ストレス緩和香料は、クレンジングオイル、クレンジングフォーム、メイククレンジング、マッサージクリーム、マッサージオイル、ボディークリーム、フェイスクリーム、化粧水、美容液、マスク製品などに用いられる。

実施例 4 : 浴剤

炭酸水素ナトリウム	70 重量部
無水硫酸ナトリウム	28.8
実施例 3 のストレス緩和香料	1
色素 Y-202-1	0.2

香料を除いた成分を V 型ミキサーにて均一になるまで攪拌した後、ストレス緩和香料を加え、さらに均一になるまで充分に攪拌して浴剤を得た。

実施例 5 : ゲル芳香剤

カラギーナン	3.0 重量部
プロピレングリコール	2.0
プロピルパラベン	0.3
実施例 2 のストレス緩和香料	5.0
水	89.7

カラギーナン、プロピレングリコール及びプロピルパラベンを混合して攪拌しながら水を加え、これを穏やかに攪拌しながら約 80℃になるまで加熱した。その後、約 65℃とし、これをホモジナイザーを用いて 3000rpm で攪拌しながらストレス緩和香料を加えて均一な相とした後、所定の容器に流し込み、自然冷却して芳香剤を得た。

実施例 6 : リキッドタイプ芳香剤

95%エタノール	25.0 重量部
界面活性剤	5.0
実施例 2 のストレス緩和香料	3.0
水	67.0

水を除く各成分を混合し、穏やかに攪拌しながら水を加え、均一にして芳香剤を得た。なお、界面活性剤としてポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル EO-13 を用いた。

実施例 7 : リキッドタイプ消臭剤

消臭原液 FS-500M (白井松新薬株式会社製)	5.0 重量部
95%エタノール	19.0

界面活性剤	10.0
実施例1の改質バレリアン油	1.0
水	65.0

水以外の各成分を混合し、穏やかに攪拌しながら水を加えて消臭剤（リキッドタイプ）を得た。なお、界面活性剤としてポリオキシエチレンノニルフェニルエーテルEO-10を用いた。

実施例8：エアゾールタイプ

消臭原液FS-500M	5.0重量部
95%エタノール	29.0
実施例1の改質バレリアン	1.0
水	40.0
液化石油ガス（4.0kg/cm ² 20℃）	25.0

液化石油ガス以外の成分を混合、攪拌して均一とし、所定の量をエアゾール容器に入れてバルブを取り付けた後、液化石油ガスを注入して消臭剤（エアゾールタイプ）を得た。

実施例9 ストレス緩和香料

香料名	配合量（重量部）
リモネン	5
レモン油	5
ヘキシル サリシレート	1
グリーン ベース	5
ラバンジン オイル	1
クラリー セージ オイル	1
カモマイル オイル	1
ローズマリー オイル	1
リナロール	5
酢酸リナロール	1
シトロネロール	5
ゼラニウム オイル	1

11

バラ アブソリュートオイル	1
リラル	5
テルピナオール	1
ベンジルアセテート	1
ヘディオン	10
桂皮酸ヘキシル アルデヒド	5
ジャスミン アブソリュートオイル	1
アップルベース	5
ボルネオール	1
リュノー ナチュラル	1
ベルトフィックス	5
ヒノキ オイル	1
サンダロール	1
サンダルウッド オイル	1
ペンタライド	10
エチレン ブラシレート	10
バレリアン	1
ジプロピレングリコール	8
合計	100

上記実施例9のストレス緩和香料は、クレンジングオイル、クレンジングフォーム、メーククレンジング、マッサージクリーム、マッサージオイル、ボディークリーム、フェイスクリーム、化粧水、美容液、マスク製品などに用いられる。

実施例10：浴剤用香料

ベルガモット オイル	15.0重量部
アリアルミルグリコレート	1.0
トリプラー	2.0
ガルバナム ベース	1.0
リガントラー	1.0
シス-3 ヘキセノール	0.5

シス-3-ヘキセニルエース	0.3
グリーン ティー ベース	20.0
ラベンダー オイル	3.0
ゼラニウム ベース	3.0
アルモイズ オイル	3.0
ヘディオン	20.0
イオノン ベータ	2.5
ヘキシル桂皮酸アルデヒド	7.0
メチル アントラニレート	1.0
ヤラヤラ	1.5
イソボルニルアセテート	5.0
改質バレリアン	1.5
ジプロピレングリコール	11.7

合計 100.0

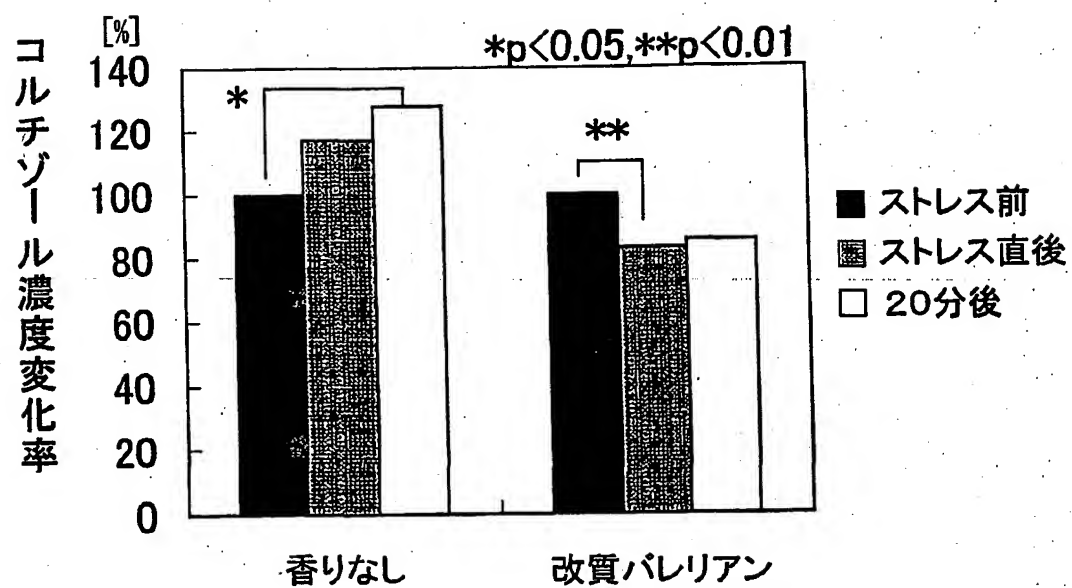
本実施例にかかる浴剤用香料は、前記実施例4の浴剤と同様、一般的浴剤成分と混合して用いることができる。

以上説明したように、本発明のストレス緩和香料によれば、バレリアン油を有効成分として含むことにより作業効率を低下させることなく、生理的な面で有効なストレス緩和効果を発揮することができる。また、このストレス緩和香料を配合することにより、生理的な面でストレス緩和効果をもつ香料組成物を提供することができる。

請求の範囲

1. バレリアン油を有効成分とするストレス緩和香料。
2. 請求項1記載の香料において、バレリアン油は脂肪酸を除去されていることを特徴とするストレス緩和香料。
3. 請求項1または2記載の香料において、バレリアン油を香料中0.2重量%以上含有することを特徴とするストレス緩和香料。
4. 請求項1～3のいずれかに記載の香料を含有することを特徴とするストレス緩和香料組成物。
5. バレリアン油を有効量吸引させることを特徴とするストレス緩和方法。
6. 請求項5記載の方法において、バレリアン油を香料中に0.2重量%以上含有させることを特徴とするストレス緩和方法。
7. バレリアン油のストレス緩和剤としての使用。

図 1



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP01/05261

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl.⁷ C11B9/00, A61K7/46, 35/78, A61P25/22, 25/20

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl.⁷ C11B9/00, A61K7/46, 35/78, A61P25/22, 25/20

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)
JICST FILE (JOIS)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 10-204473 A (Shiseido Company, Limited), 04 August, 1998 (04.08.98), Claims (Family: none)	1-4
Y	JP 1-254628 A (Shiseido Company, Limited), 11 October, 1989 (11.10.89), Claims (Family: none)	1-4
Y	Nobuhito KIMURA, "Stress Shakai ni okeru Mental Herb no Riyou", Shokuhin to Kaihatsu, (1999), Vol.34, No.3, pages 12 to 14	1-4
Y	Michiaki KAWASAKI, "Nioi no Hito e no Kouyou to sono Seitai Keisoku", J. Soc. Cosmet. Chem. Japan, (1998), Vol.32, No.3, pages 247 to 252	1-4
Y	KOHNEN, R. et al., "The Effects of Valerian, Propranolol, and their Combination on Activation, Performance, and Mood of Healthy Volunteers under Social Stress Conditions", Pharmacopsychiatry, (1988), Vol.21, No.6, pages 447 to 448	1-4

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:
 "A" document defining the general state of the art which is not
 considered to be of particular relevance
 "E" earlier document but published on or after the international filing
 date
 "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is
 cited to establish the publication date of another citation or other
 special reason (as specified)
 "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other
 means
 "P" document published prior to the international filing date but later
 than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or
 priority date and not in conflict with the application but cited to
 understand the principle or theory underlying the invention
 "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be
 considered novel or cannot be considered to involve an inventive
 step when the document is taken alone
 "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be
 considered to involve an inventive step when the document is
 combined with one or more other such documents, such
 combination being obvious to a person skilled in the art
 "&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
23 August, 2001 (23.08.01)Date of mailing of the international search report
04 September, 2001 (04.09.01)Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP01/05261

Box I Observations where certain claims were found unsearchable (Continuation of item 1 of first sheet)

This international search report has not been established in respect of certain claims under Article 17(2)(a) for the following reasons:

1. ☒ Claims Nos.: 5-7
because they relate to subject matter not required to be searched by this Authority, namely:

Claims 5 to 7 pertain to methods for treatment of the human body by therapy and thus relate to a subject matter which this International Searching Authority is not required to search.
2. ☐ Claims Nos.:
because they relate to parts of the international application that do not comply with the prescribed requirements to such an extent that no meaningful international search can be carried out, specifically:
3. ☐ Claims Nos.:
because they are dependent claims and are not drafted in accordance with the second and third sentences of Rule 6.4(a).

Box II Observations where unity of invention is lacking (Continuation of item 2 of first sheet)

This International Searching Authority found multiple inventions in this international application, as follows:

1. ☐ As all required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers all searchable claims.
2. ☐ As all searchable claims could be searched without effort justifying an additional fee, this Authority did not invite payment of any additional fee.
3. ☐ As only some of the required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers only those claims for which fees were paid, specifically claims Nos.:
4. ☐ No required additional search fees were timely paid by the applicant. Consequently, this international search report is restricted to the invention first mentioned in the claims; it is covered by claims Nos.:

Remark on Protest ☐ The additional search fees were accompanied by the applicant's protest.
☐ No protest accompanied the payment of additional search fees.

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl.⁷ C11B9/00, A61K7/46, 35/78, A61P25/22, 25/20

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl.⁷ C11B9/00, A61K7/46, 35/78, A61P25/22, 25/20

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

JICSTファイル (JOIS)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	JP 10-204473 A(株式会社資生堂) 4.8月.1998(04.08.98), 特許請求の範囲(ファミリーなし)	1-4
Y	JP 1-254628 A(株式会社資生堂) 11.10月.1989(11.10.89), 特許請求の範囲(ファミリーなし)	1-4
Y	木村宣仁, ストレス社会におけるメンタルハーブの利用, 食品と開発, 1999, 第34巻, 第3号, p. 12-14	1-4

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)

「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

23.08.01

国際調査報告の発送日

04.09.01

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

近藤 政克



4V 9734

電話番号 03-3581-1101 内線 3483

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	川崎通昭, においのヒトへの効用とその生体計測, J. Soc. Cosmet. Chem. Japan., 1998, 第32巻, 第3号, p. 247-252	1-4
Y	KOHNEN, R et al. The Effects of Valerian, Propranolol, and their Combination on Activation, Performance, and Mood of Healthy Volunteers under Social Stress Conditions. Pharmacopsychiatry, 1988, Vol. 21, No. 6, p. 447-448	1-4

第I欄 請求の範囲の一部の調査ができないときの意見 (第1ページの2の続き)

法第8条第3項 (PCT17条(2)(a))の規定により、この国際調査報告は次の理由により請求の範囲の一部について作成しなかった。

1. ☒ 請求の範囲 5-7 は、この国際調査機関が調査することを要しない対象に係るものである。
つまり、
請求の範囲5-7は、治療による人体の処置方法に関するものであって、この国際調査機関が調査することを要しない対象に係るものである。
2. ☐ 請求の範囲 は、有意義な国際調査をすることができる程度まで所定の要件を満たしていない国際出願の部分に係るものである。つまり、
3. ☐ 請求の範囲 は、従属請求の範囲であってPCT規則6.4(a)の第2文及び第3文の規定に従って記載されていない。

第II欄 発明の単一性が欠如しているときの意見 (第1ページの3の続き)

次に述べるようにこの国際出願に二以上の発明があるとこの国際調査機関は認めた。

1. ☐ 出願人が必要な追加調査手数料をすべて期間内に納付したので、この国際調査報告は、すべての調査可能な請求の範囲について作成した。
2. ☐ 追加調査手数料を要求するまでもなく、すべての調査可能な請求の範囲について調査することができたので、追加調査手数料の納付を求めなかった。
3. ☐ 出願人が必要な追加調査手数料を一部のみしか期間内に納付しなかったため、この国際調査報告は、手数料の納付のあった次の請求の範囲のみについて作成した。
4. ☐ 出願人が必要な追加調査手数料を期間内に納付しなかったため、この国際調査報告は、請求の範囲の最初に記載されている発明に係る次の請求の範囲について作成した。

追加調査手数料の異議の申立てに関する注意

- ☐ 追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがあった。
☐ 追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがなかった。